

関東信越税理士会熊谷支部長賞

日本の税金

川本町立川本中学校 三年 飯塚 千仁

私たちの納めている税金。その税金で今の私たちの暮らしが成り立っているとは、私も漠然とは理解しているが、実際どのような税金があり、その税金がどのように使われているのかが実は私はよく分かっていない。テレビのニュース等で所得税や何やらその他の税金の話をきくが、私にはそれがよく理解できないのである。このままではいけないと考え税金について調べてみた。

まず私たち中学生が払っている税金はどれくらいあるのか。中学生でも支払う可能性のある税金の例をいくつか上げてみようと思う。

パターン1・消費税

私たちは買物をすることがある。そこでかかるのが消費税だ。消費税の税率は四パーセント、その他に地方消費税が一パーセント入る。これらを合わせると五パーセントになる。これはほとんどの中学生が一度は払っているだろう。

パターン2・所得税

例えば、銀行に預金したり郵便局に貯金していればその利子に所得税がかかる。

パターン3・仕事してる

タレントなど、子供でも働いている人の場合も税金を納める。

パターン4・相続税

親が亡くなったりなどで財産を得ると、相続税がかかる場合もある。

私が調べられたのはこの四点だった。私が予想していたのは消費税だけだったので驚いた。パターン3, 4はあまりないがパターン2の所得税は知らなかったので調べてよかったと思う。

次に私たちに使われている税金を調べた。私たちに一番身近なものは教育。なのでその教育費を重点的にみると、教科書類や新しい学校の建設費、先生の給料など様々なものに使われていることを知ることができた。もし税金がなくなったらこれらのものすべてが個人負担となり何十万ものお金を払うことになるだろう。今まで「なんであるんだよ」と思っていた税金のありがたさが身に染みた。

もう一つ、気になっていることがある。少子高齢化の問題だ。今は六十五歳以上のお年寄りを四人で支えているが二十年後は一人のお年寄りを二人で支えることになってしまうという。そうなったら確実に税金は上がる。税金が上がるのはしかたのないことだろうけれども、上がってばかりでは国民の政府に対する不満も高くなるだろう。そうなる前に政府は税金を上げるだけではなくもっと別の手を講じるべきではないかと思う。